

2026/27 ギラヴァンツ北九州サポーターカンファレンス議事録

2026 年 9 月 16 日（水）19:00～21:00

出席者：株式会社ギラヴァンツ北九州 代表取締役社長 石田真一

強化本部強化部長 池元友樹

ギラヴァンツ北九州サポーター 96 名

議事録は、以下のルールに基づいて加筆や添削をしております。

- ① 本来の意図から逸脱したりする可能性のある部分、特定の個人、選手、団体に関わる内容は割愛いたしました
- ② 重複する内容やわかりづらい表現などは加筆いたしました

---

代表挨拶

---

【石田真一】

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。日頃からホームでもアウェイでもクラブを支えてくださっている皆様に、心より御礼申し上げます。

私たちは今シーズン、J2 昇格を目標に掲げてスタートしました。しかし、現在の成績は想定していた水準を大きく下回っており、代表としてこの現状を重く受け止めております。皆様にはシーズン開幕以来スタジアムにご来場いただき、多くのご声援をいただきながら、ご期待に応える結果を出せていないことを深くお詫び申し上げます。監督の選任、現場を支える体制の構築、予算編成はクラブとして行ってきた判断であり、その最終的な責任は私にあります。その上で、現在のクラブの方針をお伝えしたいと思います。

1 つ目は、今シーズン、J2 昇格を目指す方針を継続することです。開幕 6 試合で勝ち星に恵まれておりませんが、選手補強も含めたチーム力の強化を通じて、シーズン当初に掲げた目標の

達成に向け、クラブ一丸となって引き続き取り組んでまいります。

2つ目は、田中監督を含む指導体制を継続することです。田中監督につきましては、チームビルディング、選手の育成を含むマネジメント、そしてクラブが目指す方向に沿って課題修正を進めている点を高く評価しております。しかし、守備の安定や先制した後、また試合終盤の対応など、勝点につなげる点におきましては課題もありますので、監督とともにしっかりと改善を図ってまいりたいと思っております。池元強化部長から、試合の結果と内容、当初計画との差分、その原因や優先している課題についてご説明いたします。その後、事前にいただいた質問の中から、競技面と事業面で代表的なものをそれぞれ2つ選び、ご説明させていただきます。

---

## チームの現状と今後の取り組み

---

### 【池元友樹】

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

ホーム、アウェイ、そして練習場も含めて、選手たちへの温かく熱い声援、クラブへの思いは、いつも強く感じさせてもらっています。そういった中で結果を出せていない現状を、私も責任者として重く受け止めております。これから6試合の振り返りをさせていただきます。この6試合だけではなく、百年構想リーグも含めて、スタイルを見直して進めていく中で積み上がっているものも少なからずあると思っています。ただ、1勝もできていないという現状（9/16時点）は、見直さなければいけません。変えていかなければいけないところは、監督とも話をしながら整理して進めていきたいと思っています。それでは、6試合の振り返りをお話しさせていただきます。

### ■戦績とスタイルの方向性

戦績はまだ勝利がなく、3分け3敗、勝点3、順位は19位。得点数7、失点数14と非常に厳しい状況だと認識しております。このような状況ではありますが、新体制の時にお話ししたスタイルの方向性は変えず、継続して進めていこうと思っています。ハイインテンシティをベー

スに、相手陣内で主導権を握り続けるフットボールを掲げて、進めていきます。その中で結果がついてきていないことを重く受け止め、改めて優先順位をしっかりと整理して進めていきたいと思っています。今、我々が大事にしているのは、強度、攻守、ゲームコントロールです。これらを重点項目として進めています。積み上がっているものとしては、攻守において前方への連続したアクションが増えてきています。攻撃では、得点数に直結していないものの、相手陣内への進入回数は増えています。守備では、前からのプレスや奪われた後の即時奪回についても、数値的に見ると百年構想リーグと比べて良い傾向が出ています。ゲームコントロールについては、終盤や大事な局面での失点が非常に多い状況です。しかし、ハーフタイムや飲水タイムでの修正力、これは監督の力でもあります、それを選手たちがしっかりと受け入れてすぐに対応するところは積み上がってきていると思っています。

一方で変えていかなければいけないこともあります。後ほど詳しくお話しますが、強度についてはまだ 90 分を通して高い基準を維持できていません。攻撃では相手陣内への進入回数は増えているものの、そこからペナルティエリアへの進入や決定機、得点につなげることがまだできていません。

守備についても、強度と同じように 90 分を通して対応すること、ゴール前の守備や粘り強さを変えていかなければいけません。

## ■強度について

ハイインテンシティという方向性を変えず、90 分を通して高い基準を維持することを目指します。攻守における連続性や前方向へのアクション、ボールを失った後の素早い奪回は今シーズンの狙いでもあり、トレーニングを通じて積み上がってきています。一方、試合終盤には疲労によって強度や判断が低下し、次のプレーへの準備の遅れやミスにつながる場面があります。結果につなげるため、試合の進め方も含めて整理し、90 分を通して安定したパフォーマンスを発揮できるよう取り組んでいきます。

## ■攻撃について

選手一人ひとりが適切な距離感を保ち、状況に応じて前進の方法を使い分けることを意識しています。相手陣内へ進む回数には改善が見られる一方、そこから決定機や得点につなげる質には課題があります。パスを出した後の動き、追い越す動き、背後へのアクションなど、複数の選手が連続・連動して関わる場面を増やしていく必要があります。また、自陣での不用意なボールロストを減らし、前を選択する判断や、プレーのスピードを高めることも必要です。相手

陣内への前進、決定機の創出、シュートにつなげる過程など複数の観点から継続的に分析しています。具体的な指標や基準値はチーム内で管理し、試合ごとの振り返りを定期的に行い、監督・スタッフと改善策を検討しています。

#### ■守備について

積み上がっている点として、前向きな守備や、ボールを失った後に素早く奪い返そうとする意識は高まっています。ただし、それを結果につなげるためには、前線からの守備と自陣での守備を状況に応じて使い分け、チーム全体が連動する仕組みをさらに高める必要があります。変えていくべき点は、相手に前進された後やゴール前での対応です。対人対応、カバーリング、全体のラインコントロールなどを継続して改善し、相手の決定機を減らしていく必要があります。守備面についても複数の指標から継続的に検証し、失点の減少につながる改善を進めます。

#### ■ゲームコントロールについて

ゲームコントロールについても、自分たちの狙いを出せる時間は作れています。その時間を長くするため、試合状況に応じた戦い方の使い分けと、大事な局面での共通認識を高めることが必要です。また、失点後など難しい状況での振る舞いについては、試合やトレーニングで成功体験を積み重ねながら改善していきます。

#### ■優先課題と今後の取り組み

優先して取り組む課題として、まずは守備の改善を進めています。ゴール前での粘り強さ、相手にシュートを打たせない対応、チーム全体の連動性を高めるため、実際の試合で起こる状況を想定したトレーニングを増やしています。守備を優先しながら、ゲームコントロールと攻撃についても並行して改善に取り組み、できるだけ早く成果につなげていきます。

今後も J2 昇格を目指す方針は変えず、目の前の 1 試合 1 試合で勝点を積み重ね、ウインターブレイクまでにはプレーオフ圏内を目指せる位置まで引き上げていきたいと思っています。そのために、日々のトレーニングと試合の振り返りを重ね、守備、攻撃、ゲームコントロールの課題を改善していきます。シーズンを通じた目標に加え、クラブでは段階的な目標を設定し、進捗を確認しながら取り組んでいます。選手・スタッフが同じ方向を向いて進めるよう、必要な情報と取り組むべき内容を整理して共有し、結果につなげていきます。現在このような状況でも選手・スタッフは前向きに取り組んでくれています。皆さんに 1 試合でも早く良い報告がで

きるよう、今週の相模原戦に向けて準備していきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

---

## 事前質問への回答（競技面）

---

### 【池元友樹】

続いて、皆様からいただいた質問について、いくつか私からお話しさせていただきたいと思います。

#### ■怪我の多さとメディカル体制について

いただいた質問の中で多かった、怪我の多さについてお話しします。百年構想リーグから今シーズンにかけて、怪我人が多く出ている状況ではあります。ただ、2025シーズンと比べると、筋肉系の怪我は少なくなっています。今はどういう怪我が多いかというと、画像を撮っても選手の反応と違っていたり、足首や膝などで難しい内容の怪我が多く出ています。そのような中でも、メディカル、トレーナー、フィジカルコーチが連携して進めています。フィジカルの面では、選手一人ひとりの最高速度が上がったり、ハイスピードランニングや高強度の加減速の数値が上がったりしています。怪我の予防は改善されているものの、アクシデントと思われるような怪我が続いている状況です。怪我をした選手がリハビリに入る際、どうしても人数が多いため現状のスタッフで対応することが難しい場合があります。そこで今は、午前と午後に分けて、一人ひとりを見られるような環境を作るなど、工夫しながら進めています。今シーズン、強度の高いサッカーを理想として進めていく中で、避けられない怪我もあります。接触による靭帯損傷、捻挫、打撲などが出ているのが現状です。ただ、理想とするスタイルを追い求めていく中で、怪我を減らすために負荷を落とすようなトレーニングへ方向転換するのは、チームとして良くないと思っています。もちろん、両方の面を改善しながらではありますが、強度を高めていくスタイルを継続し、メディカルの面ではできることをやっていこうと思っています。

選手たちも、復帰できないなど苦しい状況にあると思いますが、トレーナー、メディカルグル

ープは、一人ひとりの特徴に合わせたサポートをしてくれています。現状、怪我人は多くなっていますが、復帰している選手も増えてきています。同じことを繰り返さないように、我々もしっかりとサポートしていきたいと思っています。

#### ■チーム編成について

続いて、チーム編成についてです。百年構想リーグから今シーズンにかけての編成では、交渉に時間を要し、獲得に至らなかった選手もいました。一方で、チームの課題や各ポジションのバランス、選手の特徴などを総合的に検討し、必要と判断した補強は進めてきました。

ただ、怪我やコンディション、選手のパフォーマンスなどを踏まえると、編成上の見直しが必要な部分があったことは認識しています。私自身の経験も含めて検証し、今後の編成に生かしていかなければならないと考えています。

また、監督交代に伴う戦い方やシステムの変化もあり、現場と確認を重ねながら、登録ウィンドウの期限まで継続して補強を検討してきました。個別の補強方針や選手に求める具体的な条件については、競技上の情報となるため公表を控えますが、今後も現場と連携しながら、チーム力の向上につながる編成を進めていきます。競技面に関してのお話は以上です。

---

#### 事前質問への回答（事業面）

---

##### 【石田真一】

事前質問について、競技面以外のところを2つお話しさせていただきたいと思います。

#### ■トップチームの強化費とクラブの業績について

まず、トップチームの強化費と、そのベースとなるクラブの業績について、複数の方からご質問をいただきましたので、この点からご説明いたします。

クラブの業績の推移です。2024年度の実績、2025年度の実績、2026年度の予算という構成になっています。

2025 年度は、シーズン移行に伴って決算期を変更しています。これまでは 1 月決算でしたが、今年から 6 月決算に変更しました。そのため、今年は 17 か月という異例の事業年度になっています。ここでは比較ができるように、2025 年度の 17 か月の決算を、1 年と 5 か月に分けてご覧いただいています。もう 1 つお伝えしたいのは、2025 年度の実績については来週開催するクラブの株主総会で決算の承認を受ける予定だということです。したがって、現時点ではあくまでも見込みであり、最終確定前の数値でまだ公表していない状況です。株主総会後にリリースを出させていただきます。

まず、収入の推移です。収入合計をご覧いただくと、2024 年度は 9 億 600 万円、2025 年 2 月から 2026 年 1 月までは 10 億 2,000 万円、今期の予算は 10 億 8,800 万円となっています。内訳は、上からスポンサー収入、入場料収入、物販収入、その他収入です。この 2 年、スポンサー収入、入場料収入、物販収入はいずれも増加しています。

予算についてご説明しますと、スポンサー収入は約 5400 万円増えております。これは今期から、トップパートナーが新たに 3 社増えたことによるものです。入場料収入については、過去 2 年、入場者数が対前年比で 2 割増えていることに加え、今シーズンから単価を上げているということがあります。支出は、2024 年度が 9 億 4,500 万円、2025 年 2 月から 2026 年 1 月までが 10 億 8,800 万円、今期の予算が 10 億 8,600 万円です。トップチームの人件費をご覧いただくと、昨年、対前年比で 5,000 万円増加しています。これは、J2 昇格を目指せるチーム人件費を確保しようということ、期初の段階から赤字となる予算を作り、我々の売上から見ると、やや身の丈を超えたチーム人件費を捻出した経緯があります。一方、今年は昨年並みのチーム人件費を確保しつつ、増収による黒字化を見込む予算を策定しています。なお、2026 年 2 月から 6 月までの 5 か月間の数値は、あくまでも参考値ですが、損益では黒字化を達成しています。この基調を、今期の予算でも継続しています。以上が、業績についてのご説明です。

#### ■クラブハウス建設とクラウドファンディングについて

次に、クラブハウスについても多くのご質問をいただいています。

特に、クラウドファンディングを実施するにあたって、その使い道をトップチームの強化費に割り振れないのかという趣旨のご質問を多くいただいているため、この件についてご説明したいと思います。

結論として、クラブハウスは、建設に踏み切らざるを得ない状況がありました。この点に絞ってお話します。

まず、退去期限が確定したということがあります。現在、新門司のクラブハウスとして、マリナーと呼ばれている建物の一部を使わせていただいています。この建物からの退去通知を受けたのが今から3年前です。当時は、2026年3月に退去するようという通知でした。すぐに代替施設を見つけることが難しかったため、期間延長の交渉を行いました。最終的に今から1年半後の2028年3月まで延長の了解をいただきましたが、それ以降の利用は見込んでいません。したがって、2028年3月末までには、今のクラブハウスを出なければいけないという前提があります。

次に、ライセンスの維持についてです。Jリーグのクラブライセンスの要件では、クラブハウスの確保が必須条件となっています。自前でなくてもよいのですが、練習場の近隣にクラブハウスをきちんと確保することが要件になっています。仮にクラブハウスがない状況になると、Jリーグの参加資格を喪失する可能性があります。

3点目は、代替施設がないということです。退去通知を受けてから、居抜きの物件、つまり新しく建設しなくても使える物件がないか周辺の調査を行いました。しかし、練習グラウンドの周辺にそのような施設がなく、新たに建設する以外に有効な解決策がない状況でした。クラブハウス建設の主な財源としては、企業版ふるさと納税という制度を利用しています。企業の皆様から北九州市に寄付をしていただき、その寄付金を地域の活性化につながる事業に活用する制度です。今回は、この新門司のクラブハウスをその事業として認定いただき、企業版ふるさと納税の制度を利用して企業の皆様から寄付を募っています。加えて、今回はクラウドファンディングを通じて個人の皆様からも多くのご支援をいただき、クラブハウス建設の財源として利用させていただきたいという趣旨で、実施に踏み切りました。

このような、やむにやまれぬ事情からクラブハウスの建設に踏み切ったわけですが、当然クラブがJ2昇格、そしてその先を目指していくにあたっては、強化の環境をさらに充実させることが必要不可欠だと考えています。そのため、今回のクラブハウスでは、厨房付きの食事スペースなど既存のクラブハウスにはない設備を設けることを計画しています。今回のクラブハウスは、将来我々がJリーグのクラブとして存続していくため、そしてチームの強化を継続していくために必要な設備投資だということで、ご理解いただければと思います。

以上です。

---

会場からの質疑応答

---

【質問者 1】

石田社長、池元強化部長、今日はこのような場を設けていただき、ありがとうございます。先ほど強化部長から細かいデータをお示しいただき、クラブが今、目指しているところもよく分かりました。ただ、結果を見ると、今の順位にいるのはなるべくしてなっているのかなと思います。ゴールを決めることと、ゴールを守ることがサッカーの目的だと思うので、そこが18位と20位であれば、成績が19位なのも当然だと思います。一番懸念しているのは、今強化しているというお話ですが、その間に1年が終わってJFLに降格してしまうのではないかとということです。おそらくサポーターは、みんな心配しているのではないかと思います。逆に今はこういう危機的な状況だからこそ、大きく変わるチャンスではないかとも思います。ただ、変わるためには、今の方針のどこが悪いのかをきちんと見直してほしいです。理想を求めることはもちろん分かりますが、より実現可能なより良いものを取り入れてほしいと思います。今日は代表してここに100名のサポーターが集まっています。もし皆さんにも賛同いただけるのであれば、ぜひ実行していただきたいことが2つあって、ここに来ました。

1つ目は、メンタルコーチの導入です。強化も、選手を呼んでくることも大事だと思いますが、現実的には今いる選手でやっていくしかないと思います。監督もフロントも選手たちの能力を信じていらっしゃると思いますが、僕らが見ていると、選手たちが試合中に実力を発揮できていないと強く感じます。プレーを見ても自信がなさそうで、それがミスにつながっているように見えます。臨時でもよいのでメンタルコーチの導入をご検討いただけないでしょうか。これは数年前から思っていました。

2つ目は、理想を求めることはとても大事だと思います。それを継続しつつ、本当に今の方針でよいのかを、考え直していただきたいということです。例えばJ1であれば、どのようなクラブを目指していくのか、具体的なチームを掲げてはどうでしょうか。ずっとJ1で戦っているようなチーム、池元さんであれば在籍していた柏レイソルなどもあると思います。そういうクラブにフロントやコーチの方が視察に行き、チームのマネジメントやトレーニング方法を学んで持ち帰っていただく。そういうことであれば、すぐにできるのではないかと思います。できれば、そうした取り組みを通じて、すぐにチームに効果が出るようなことを考えていただければと思います。

【池元友樹】

1つ目のメンタルコーチングについてですが、実は数年前から取り入れています。もちろん限られた予算の中でやっていますので、単発的な取り組みになっていた部分もあります。ただ選手が個人的に継続しているケースもあり、今も取り組んでいる選手がいます。一度は定期的に取り組んでいたものの、あまり必要ないと感じて離れた選手もいました。メンタルとは少し違う部分ですが、チームビルディングとして、選手全体へのアプローチを行う機会も設けていました。コーチングスタッフやメディカルスタッフも含めて、百年構想リーグまではチームビルディングを進めていました。また僕自身もそういった機会を見て関わってきましたので、今シーズンからは自分たちで選手やスタッフに対して関わりを強めていけるような取り組みを進めています。これまでも実際にそういった機会を作ってきましたので、段階的に自分たちで何とか作り上げていけたらという考えで進めている状況です。2つ目について、実際にそういった方向性を考えながら進めています。理想とするスタイルは、クラブとして持つべきではありますが、外部のクラブと関わりを持つことも非常に大事だと感じています。今、私が同じ強化担当と話をしたり、アカデミーも含めてどのような指導でどのような選手が育っているのか、チーム全体のチームビルディングも含めてそのような関わりができる方向で考えています。今すぐ実現できるかは分かりませんし、少し時間がかかるかもしれませんが、そういった関係性を構築しながら進めていけたらと考えている状況です。

#### 【質問者 2】

練習の強度を下げずに、選手をサポートしていくというお話でしたが、強度を落とさないと厳しい部分も出てくるのではないかと思います。怪我人が増えると今はぎりぎりのメンバーの中からメンバーを選出しているように見えてしまいます。私だけでなく、他のサポーターの方もそうかもしれませんが、そのあたりを考慮していただけたらという思いがあります。その点について、ご意見をいただけたらと思います。

#### 【池元友樹】

「強度を落とさず」というのも、最低限のことだと思っています。フィジカルコーチが数値を見ながら、1週間、さらに年間の進め方も含めてしっかりと計画を立ててくれています。その中で、ぎりぎりのところを攻めていかないと選手も成長しませんし、チームとしても上がっていかないということです。何も考えずに厳しいトレーニングをしているわけではありません。チーム全体として方向性を定めた上で、今日1日、1週間という期間でどのくらいのトレーニング量や強度が必要なのかを考えています。逆に落とすこともあります。試合の出場時間も違

いますので、選手によっては個別に厳しいトレーニングを入れることもあります。あとは筋力トレーニングです。フィジカルトレーニングが予防につながることもありますので、そういったこともチームとして取り組んでいます。選手たちも非常に意識が高く、パーソナルでトレーニングを行うなど、最低限の怪我の予防はしっかりと心がけてくれています。そこは連携しながら進めています。ただ、実際に怪我人が減らないということについては、今後もしっかりとコミュニケーションを取りながら進めていかなければいけないと思っています。

### 【質問者 3】

J2 昇格という目標自体は変えないとおっしゃっていて、ウインターブレイクまでの中間目標と、直近の目標をプロジェクターに映していただきました。現状とそのスタッツ、中間目標の間にどれくらいの乖離があるのでしょうか。乖離があるから今の時期にこういう場を設けているのだと思いますが、中間目標を達成するためには具体的にどれくらい数値を上げなければいけないのか、どういうアプローチを取らなければいけないのかをお聞きしたいです。

### 【池元友樹】

ありがとうございます。ウインターブレイクまでの目標数値は設定しています。

ただ、現在の順位や勝点を踏まえ、具体的な目標数値を公表することによるチームへの負担も考慮し、この場で具体的な数値や順位を公表することは控えたいと考えています。

目標と現状に差があることは認識しており、まずは守備の改善を優先し、失点を減らして勝点につなげる取り組みを進めています。

### 【質問者 3】

仮に試合を重ねて、そのスタッツとの間に乖離があった場合、どういう形でスタッフの方に伝えるのが疑問です。具体的な数値を伝えずに進めるのは、難しいのではないかと思います。今おっしゃった数値を減らすという目標はありますが、僕の場合、仕事であれば数値を出して「これだけ足りないから、こういうアプローチを取りましょう」と話します。具体的な数

値を見せずに伝えることが、個人的な感覚では少しぴんと来なかったので、どう細かく詰めていくのかと思ひまして。J2 昇格という大きな目標と現状には差があると思ひますし、そこに向けては、かなり厳しい要求をすることもあると思ひます。具体的な数値を示さずに、どう目標を伝えるのか、疑問に思ひました。

#### 【池元友樹】

ありがとうございます。試合ごとのデータを踏まえ、改善が必要な項目と、それを勝利につなげていく方向性については、定期的に監督と協議しています。また、チーム内では監督・スタッフ間で必要な情報を共有し、取り組むべき内容を整理したうえで、日々のトレーニングや試合に落とし込んでいます。強化部と監督・スタッフでは担う役割が異なるため、重点的に確認する指標や、数値の活用の仕方には違いがありますが、J2 昇格という共通の目標に向け、それぞれの役割に応じた指標を用い、取り組みの進捗を確認しています。

#### 【質問者 4】

今ギラヴァンツがどういう方向性を持っているのか、今回のお話でよく分かりました。私はいつもゴール裏で応援していますが、選手たちは楽しそうにプレーできているのかな、北九州に来て良かったと思っているのかなと考えながら見えています。少し話は変わりますが、赤ちゃんの時から知っている友人のお子さんが、ギラヴァンツ北九州のユースに在籍していました。その当時、本人はトップに昇格したいと言っていたのですが、JFL に落ちるかどうなのかという時期で、半年後に聞くと大学に進学すると。親元を離れてずっとサッカーをやってきた子の進路が、トップチームの状態によって変わるのかと、とても残念に思ったことを覚えています。数値のようにみんなが明確に共有できるイメージは、強くなるため、結果を出すためにとても大事だと思います。先ほどメンタルトレーニングのお話がありましたが、内部の知っている者同士でできることと、外部からきちんと指摘できるプロが入ることは明確に違うと思います。予算や人件費の問題がありプロの方にどこまで見てもらえるかは難しいと思います。ただ、どういうものを食べると体がどう変わるのか、疲労感はどう変わるのか、筋力トレーニングに関する回復力がどう変わるのかを、定期的に選手たちへ伝えることはとても大事なのではないのでしょうか。本当に難しいと思います。J3 の予算の中で結果を出し、なおかつ勝っていくことは、生半可なことではないと思います。ただ、また JFL に落ちるかもしれないという思いを、せっかく見に来てくれたお客さんや子どもたち、サポーターの皆さんに味わってほしくありませ

ん。なので、言わないのではなく、池元さんぜひ伝えてください。「僕たちはこの方向でやっていくから、一緒の方向を見て、こう進むためにはどうしたらよいか、一緒に考えてくれないか」と、コーチ、選手、監督にもお伝えいただきたいと思います。質問というよりお願いになってしまいましたが、勝ちたいです。勝って喜ぶ姿を見たいです。どうぞよろしくお願いします。

#### 【池元友樹】

ありがとうございます。今のお話からも、たくさんの思いを感じさせていただきました。僕たちも危機感を持って、選手やスタッフと関わっています。皆さんとも共有しながら僕らの思いも伝えたいですし、一緒に戦いたいという気持ちは間違いなく持っています。今日来ていただいている皆さんも、同じような気持ちで来られていると思っています。いただいたご意見は、私自身もしっかりと受け止めます。もちろん結果が全てです。スピード感を持ってアプローチして1日でも早く皆さんと勝利を味わえるよう、選手たちと戦っていきたいと思っています。冒頭でも少しお話ししましたが、こういう状況でも選手やスタッフは本当に下を向いていません。今日のトレーニングも精神的には苦しい状況かもしれませんが、プロだから当たり前とはいえ難しい状況だと思います。それでも、前向きに取り組んでくれました。彼らも勝ちたいですし、皆さんもそうだと思います。引き続き、一緒に戦っていただけたらと思います。よろしくお願いします。

#### 【質問者5】

強化部長へのお願いです。守備の改善とされていますが、この3試合で11失点ですよ。鳥取戦の4失点については、監督も「軽い失点だった」とコメントしています。私たちがテレビや映像で見直しますが、結局やられ方が同じパターンです。右から攻められてクロスを上げられファーに誰もおらず、相手がフリーになって点を入れている。こういう状況が何度もあります。監督やコーチがそこをきちんと指導されているのか、見ていて分からないんですね。4バックなら、当然サイドバックがそういう仕事をきちんとできなければいけませんが、今出ている選手はできていない。だから補強してほしいのですが、簡単にはできないと思います。サイドバックを他から獲得するのは、なかなか難しいことだと思います。今回、藤原奏哉選手がガンバ大阪に行きました。彼はサイドバックですが、ギラヴァンツにいた時はボランチを任されていて、最初はボランチとしてあまり目立ちませんでした。それがサイドバックに変わった途端に成長して、一気にJ1まで上がった選手です。ですから、ポジションにこだわらず選手全体

を見直して、「この選手はサイドバックで使えるのではないか」という見方もしてほしいんです。ただ単にディフェンス陣だけで練習するだけではなく、そういうやり方もあるのではないか、藤原選手のような選手が出てくるのではないかと思いますので、検討してみてください。お願いします。

【池元友樹】

ありがとうございます。選手の可能性を広げることも含めて、各選手にいろいろなポジションを試してはいます。実際にこの前の試合に出ていた官澤琉汰選手は、もともとボランチの選手で今はサイドバックをやっています。いろいろな可能性を見ながら、日頃からスタッフたちも選手について考えてくれています。ただ、おっしゃるように失点が止まらない、改善されないということは、しっかりと整理して進めていかなければいけないと思っています。

【質問者 6】

こんばんは。質問させていただきます。これまでいろいろな説明などがありましたが、今日集まった 100 人に一番何を伝えたいのかをお聞きしたいです。また、補強で 3 人の良い選手が入ったというお話ですが、グラヴァンツ北九州は今後どんなチームになり、僕たちに何を見せてくれるのか一言でもよいので教えていただけたらと思います。数値で示してほしいという声もありますが、なかなか言いづらい部分もあると思います。グラヴァンツは何を見せてくれるのか、今日一番何を伝えたいのかを、社長と池元さんそれぞれにお聞きしたいです。

【石田真一】

ご質問ありがとうございます。一番お伝えしたいことは、まず、平日の遅い時間にもかかわらず、これだけ多くの方に集まっていたことへの感謝です。私自身が一番恐れているのは、皆さんから関心さえ寄せられなくなることです。そういう状況は避けたいと思っています。その中で、これだけ多くの方にお越しいただき、率直なお声を聞かせていただいていることに本当に感謝しています。皆様のお気持ちにしっかりと形で応えなければいけないと痛感しているということが、今日私から一番お伝えしたかったことです。これからについてですが、私どもはサッカーの興行を行っているクラブです。ただ、なぜそれをしているかという、地

域を元気にすることや関わっていただく皆様の笑顔を生み出すことが、サッカーの試合の先にあるからです。それを実現するためには、やはりチームが勝って、皆さんに元気を届けることが必要だと思います。改めてチームの結果にしっかりと重きを置いて皆様に力をお届けできるクラブにならなければいけないと考えています。

【池元友樹】

ありがとうございます。今日一番お伝えしたかったのは、今の成績について百年構想リーグから含めて、チームで何が起きているのか、どういう状況なのかということです。その課題をお伝えした上で、これからどう修正していくのかをお話しできればと思っていました。2つ目のなりたい姿についてですが、このクラブには本当にたくさんの人が関わっています。皆さんも我々スタッフも選手もそうです。そうした方々がギラヴァンツ北九州を誇りに思えること。どんな状況でも「このクラブを応援していて良かった」「この選手を応援していて良かった」と思っただき、一緒に戦いたいと思っただけのクラブになりたいと思っています。

【質問者 7】

第6節終了時点で未勝利が続く中、ボール保持率は高いと思います。ただ、カウンターの実施数やシュート数はリーグで低い水準にとどまっているということが、先ほどの数値でも出ていたと思います。前節は4失点していて、結果が出ていません。この状況では、観客動員や事業収益にも影響が出てくると思います。チームが目指すスタイルを追求することはよいのですが、実際に勝点が伴っていません。スタイルの追求をいったん置いて、勝点3を取りに行くために、いったん手放すものも必要なのではないかと思っています。勝点獲得に向けた現実的な戦術、柔軟性、速攻や早い攻めへの展開などとのバランスについて、クラブとしての評価基準と見直し方針を聞かせていただけないでしょうか。

【池元友樹】

ありがとうございます。今シーズン掲げているインテンシティの高いスタイルは、現状では結果につながっていません。ハイポゼッションを捨てたわけではありませんが、今は強度を高めることが勝点につながると考えて進めています。もちろん失点が多いので、守備をしっかりと固めます。その上で、ボール保持はできているものの、その後スピード感を持って相手陣内に

入っていくことは課題です。そこは意識とアクションの数を増やさなければいけないと思っています。これまで進めてきたスタイルを見直したということについて結果が出ていませんが、そういった方向性で考えています。

【質問者 7】

ありがとうございます。言葉足らずで申し訳ありません。「スタイルを捨てる」というのが、チームの目指しているスタイル自体を捨てるという意味に捉えられてしまったかもしれませんが、そうではありません。ゲームの中で一時的にそのスタイルを手放すということです。先日の鳥取戦では、後半残り 15 分の段階で 2 点差で負けている状況なのに、バックパスやディフェンスの選手同士の横パスが非常に多かった。一方、2 点目のシーンを見直すと、高橋大悟選手のサイドからのセンタリングが得点につながっています。バックパスやディフェンダー同士の横パスが多く、負けている状況でも前にボールを運んでいません。ボールを失いたくないから、後ろで攻撃を作り逆サイドに展開して穴を作って進めたいという意図は見えるのですが、それができておらず得点のにおいがしませんでした。今シーズン初めて、試合の途中で帰りたいと思ったんです。そのあたりを今後どう改善していくのか、お伺いしたいです。

【池元友樹】

ありがとうございます。そこは昨シーズンからの課題だと思っています。だからこそ今、より強度を高め前へのアクションを増やすことに取り組んでいます。おっしゃるように、横パスやバックパスが多いという判断は変えていかなければいけませんので、引き続き取り組んでいきます。ただ、横パスやバックパスが多いことが全て悪いかというと、そうではありません。それがあるから背後に行ける、クロスにつなげられるという面もあります。相手をどう引き出して背後を使うかということもありますので、使い分けをもっと整理して選手たちに落とし込まなければいけないと思っています。

【質問者 8】

石田社長に、経営上のことでお聞きしたいことがあります。先ほど決算の見込み資料などを見せていただきましたが、2021 年に J2 から J3 へ降格して以降、売上は 10 億円前後を行き来し

ていて、長い目で見ると営業収入が伸び悩んでいると思います。その間に減資をしたり、今年の春には増資をしたりしていて、資金面では大変なのだろうと感じます。一方で、資金をある程度かけると、今ユースやジュニアユースは、プリンスリーグ・九州リーグに所属しているチームぐらいの予算をかけてかなり強くなっています。

先ほど池元さんから、怪我が多くメディカルスタッフが十分に見られないところもあるというお話がありました。それなら、メディカルの人を増やしてこまめに見られれば、怪我の回復が早くなることもあるのではないのでしょうか。食事の面でも、もっと栄養状態の良いものを提供するなど、いろいろできると思います。そのためには、やはり資金規模の拡大が必要になります。ただ、営業の人数を増やすにも、最初の投資資金が必要です。そうするとさらなる資本の増加、増資について将来も含め、会社としてどう考えているのかをお聞きしたいです。2021年には、当時の玉井社長が選手補強について「あそこでお金を出して補強していれば、降格しなかったのではないかと」後悔されていた話も、少し聞いたことがあります。資金があればチームとして大胆なことができますし、若手をもっと育てたり、スカウトにお金をかけていろいろな選手を集めたりすることで、チームの安定にもつながると思います。増資などについてどうお考えなのか、お話しできる範囲でお聞かせください。

#### 【石田真一】

ありがとうございます。ご指摘のとおりだと思っています。長期的に見た場合、チームの成績と人件費には明らかな相関関係があります。単年度で例外的に人件費の低いチームが良い成績を残すことはありますが、長い期間で見ればしっかりとチームにお金をかけなければ、上のステージには行けないと認識しています。そのためにはやはり売上を増やす必要があります。売上の約半分がスポンサー収入、約2割が入場料収入となっている中で、この2つを増やさなければいけません。入場料収入は、皆様がスタジアムに足を運んでくださるおかげで、近年増加傾向にあります。その中で、スポンサー収入の拡大が一番の課題だと考えています。おっしゃるとおり、スポンサー収入を増やすには、一定の営業スタッフを抱える必要があります。クラブの中で、どこに人員や資源を投入するかを考えた場合、営業の部分は必須だと考えています。もう1つ、これまではユニフォームスポンサーやスタジアムの広告、看板といった商材を中心に販売してスポンサー収入を拡大してきました。ただ、それだけではどうしても限界があります。今、クラブとして力を入れようとしているのが、長年行ってきた地域貢献活動、最近ではサステナビリティと呼んでいる取り組みです。広告以外の価値や、その趣旨に企業の皆様から賛同いただき、協賛いただく営業活動の体制を作り始め実施しています。最近では、5月に記者会見を行いましたサステナトレセンというプログラムに、大手企業の皆様にご協賛いた

できました。こういった取り組みを引き続き拡大し、スタジアムでの広告価値以外の部分をスポンサー企業の皆様に訴求していくことが、スポンサー収入の拡大に向けた取り組みの1つです。増資についてもおっしゃるとおりです。食事やメディカルの面などに継続的に取り組むには、クラブとしてより厚い財務基盤が必要になります。今回4月にかねてから私どもを支えてくださっている地元のトップスポンサー3社に増資に応じていただきました。前回は債務超過の回避を目的とする増資でしたが、経営基盤を強化する観点で改めて増資を検討しています。具体的な時期や金額はまだ固まっていませんが、増資に応じていただきたい方々と協議している状況です。しかるべきタイミングで皆様にご報告できるようにしていきたいと思っています。

#### 【質問者9】

私は普段ゴール裏ではなくバックスタンドで、父と母、20歳の娘、18歳の長男、15歳の次男と観戦しています。九州リーグの頃からずっと見ていて、JFLに昇格した時も、JFLで4位になってJ2に上がった時も昨日のことに覚えています。何を言いたいかというと、ギラヴァンツ北九州がなくなると困るんです。生活の一部になっています。「今日の試合はどうだった」「シーズンが変わったら、次は誰のユニフォームを買うんだ」といった話を普段からしている状態です。J2昇格を目標に掲げているという説明がありましたが、逆のことを考えると降格してしまう状況にもあると思っています。JFLに落ちてしまうと我々の生活も、ここにいる方々の生活もだいぶ変わるのではないのでしょうか。昇格できなかった時の社長の身の振り方と言うと失礼かもしれませんが、責任の所在やトップとしての判断をお聞きしたいです。また、先ほど収入のお話もありましたが、市民クラブとして長く続けてきた中で、他のチームの状況を見ると例えば町田ゼルビアさんは一気に上がっていきました。提携や経営を他に任せることなどについて、この場でお話しできる範囲でお伺いできればと思います。

#### 【石田真一】

ありがとうございます。まず1つ目ですが、JFLに落ちるという事態はあってはならないことです。3年前に皆様とお話しした時にも、さまざまなことを検討してきました。必ずJリーグのクラブとして存続していくことが、私たちの基盤です。それを大前提として最優先で考えていきます。万が一そうなった場合の身の振り方については、私自身の意思もありますが、クラブも会社ですので、会社のガバナンスに従って対応することになります。具体的には、取締役会、株主総会がありますので、その手続きに沿って最終的な身の振り方を決める形になると思

います。

2つ目の会社、クラブの形についてですが、おっしゃるとおり近年市民クラブと呼ばれていたクラブで、親会社やオーナー企業に資本を移す例が非常に多くなっています。外資系も含め、そうした資本の移動が進んでいると思います。私どもとしても、市民クラブとして多くの北九州の皆様に支えていただくあり方は変わらないかもしれませんが、資本の構成についてはあらゆる可能性を考えて動いています。もちろん買収したいと言ってきた会社にも、単純に「はい、分かりました」とは言えません。クラブの理念、地域との関係、中長期の成長に向けた方針が合致するかを見極める必要があります。話があれば飛びつくということではなく、今申し上げた観点を中心に話をして、クラブにとって最適な株主を考えていくことになります。可能性は日々検討していますが、具体的なことは申し上げにくい状況ですので、ここでは控えさせていただきます。将来のクラブの成長に向けて、どういう形が一番良いのか引き続き模索してまいりたいと思っています。

#### 【質問者10】

もう1つお伝えしたいのですが、いわき戦の時は、選手たちがとてもはつらつとプレーしていた印象がありました。リーグ戦とは全く違うなと感じたんです。遠慮せずにやっているように見えました。逆にリーグ戦では躊躇しているメンバーがいるのではないかと、僕には見えてしまします。どなたかもおっしゃっていたと思いますが、名前は出しませんが「この選手かな」と思いながら見えています。そうであれば一緒に調和できるメンバーを選ぶことも、池元さんに見てもらいながら進めていただきたいと思います。いわき戦のような、はつらつとしたゲームをリーグ戦でも見せていただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

#### 【池元友樹】

ありがとうございます。いわき戦の試合の内容や結果は、本当に素晴らしかったと思っています。そこに至るまでその試合に出た選手たちは、天皇杯の沖縄SV戦に出ていたり、ご覧になった方は少ないかもしれませんが東邦チタニウム戦に出場していました。本当に苦しい内容の試合を重ねてきた選手たちが、あの場ではつらつとプレーしたわけですが、そこに行き着くまでの過程があったと思います。そこには、今リーグ戦で主に出ている選手たちの支えもありました。誰かが悪くて誰かが良いというより、チーム全体で動いています。あの試合も出場した選手だけが良かったということではなく、そこまでの過程があってあの試合がありました。次の試合に向けても、いわき戦に出ていなかった選手たちには新たな気持ちが生まれ、実際に言

葉にしたり一緒に戦っていくという思いを持って、今もプレーを続けています。ただ、おっしゃるように結果がついてこない、失点が多い、勝てていない状況になると、どうしてもはつらつとした姿が出にくくなります。ミスを恐れているように見えるプレーや、後ろ向きに見えるプレーが多くなっている現状はあると思います。そこを何とか積み上げていくために、トレーニングゲームも含めて成功体験を増やしていかなければいけないと考えて進めています。皆さんから見て、少しでも早くそうした姿を選手たちが見せられるように取り組んでいきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

#### 【質問者 11】

私は 2023 年のサポーターカンファレンスで、小中高生にもっとアプローチしてほしいと質問しました。今、小中高生に対していろいろな取り組みをしていただいているので、発言して良かったと思っています。

今回は質問が 2 点と、意見が 1 つあります。

まず 1 つ目ですが、先月ギラヴァンツ北九州でインターンをさせていただきました。その時にフロントと社長との間にとても温度差を感じました。フロントの皆さんからは、ギラヴァンツ北九州をもっと良くしたいという愛を感じました。一方で社長は本当にギラヴァンツ北九州を愛してくださっているのかな、と感じてしまいました。理由としては、まず百年構想リーグで最下位になった時に社長から挨拶がなかったことが心に残っていて、驚きました。社長がギラヴァンツを愛していたらもっと「自分はこうやっていきたい」「J1 に上がっていきたいから、ファンの皆さんも一緒についてきてください」と、一言言ってくたださるだけでも、ファンやサポーターは社長と一緒に頑張ろうと思えると感じました。

2 点目は、愛媛戦の時に「まだ 5 試合」と言ったことに、とても驚いたということです。選手の中では、まだ 5 試合としか考えていないのだなと感じ取ってしまいました。

選手間では 2023 年のようにミラクルが起こって、JFL には落ちないのではないかという雰囲気があるのかなと感じてしまいました。ファンは、とにかく落ちたくないんです。先ほどもあったように、生活の一部ですから。JFL に落ちて J リーグサポーターではなくなるのがつらいので、必死に毎試合遠征しホームにも行っています。土日がギラヴァンツというのが日常になっている中で、愛媛に行っていた自分にとってキャプテンのその一言はとても残念でした。なので、選手間で「絶対に J2 に上がる、そこから J1 に上がっていく」という意思疎通ができていいのか疑問に感じました。

最後は意見ですが、先ほどデータや数値などいろいろなお話がありましたが、とにかくシュートを打つしかないのではないかと感じています。自分はサッカーをやったことがないので、詳しくは分かりません。ただ、10年以上ギラヴァンツ北九州を見ていて、ゴールの前に行かなければゴールは入りませんし、後ろでパスを回してもゴールは入らないじゃないですか。だから、全員が「意地でもゴールを決める」という考えをもっと持ってほしいと思いました。

#### 【石田真一】

1つ目については、大変申し訳ございません。クラブに対して愛がないということではありません。個人的な話になりますが、縁もゆかりもないところでこの年齢でこういう機会をいただき、本当に感謝しています。自分自身の残りの時間をかけて、このクラブをより良くし次の世代にバトンを渡そうと思って毎日取り組んでいます。そういう思いを十分に伝えきれていないのは私の言葉が足りなかったり、振る舞いにまだ十分でないところがあったりするのだらうと、今日改めて反省しました。クラブのためを思い、これからも一生懸命取り組んでいきますので、引き続きよろしくお願いします。

#### 【池元友樹】

アウェイ愛媛戦の件ですが、試合後だからといってかばうわけではありません。ただ、サポーターの方も選手も感情的になり、言われたことに対して言い返してしまうことはあります。その場で聞いた時は、とてもつらい思いをされたかもしれません。ただ、見ていただくと分かると思いますが、百年構想リーグの時と比べて走っていますし、戦っています。人一倍、このクラブを思っていてプレーしてくれていると私は思っています。変わろうとして、今取り組んでいるところだと見ています。なので、あの言葉が本当の思いだったとは思っていません。ただ、そういった言葉を発したことについては、本当に申し訳なく思っています。何度も言いますが、彼だけでなくチーム全体で、ロッカーでもトレーニングでも厳しい言葉を掛け合えるようになってきています。結果がついてきていないので、まだ足りないと思います。もっと求め合わなければいけませんし、一人ひとりが向き合わなければいけないと思っています。今回、新たに補強した選手が入ったことでより厳しい競争が生まれ、いろいろなことを求め合ったり厳しい言葉が出たりして、良い変化が出てくると思っています。そういった言葉を発したことは申し訳なく思っていますが、今後のプレーを見て改めて考えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

【質問者 1 2】

私は小学生の時から、ずっとゴール裏でチームを応援しています。チームがJリーグに参入してから17年がたったと思いますが、環境面や財政面が大きく成長していることは見ていて分かります。ただ、競技面を見ると自分が小学生の時から何も変わっていないというか、むしろ落ちているように見えてしまっています。クラブとして、この17年間をどう評価しているのか。また、環境面や財政面の成長を競技面の成長につなげるために、今のギラヴァンツ北九州には何が足りないのかをお伺いしたいです。

【石田真一】

ありがとうございます。競技面では、J3からJ2に昇格し、そして降格するというアップダウンを繰り返してきました。現在もJ2昇格を掲げながら、この4年ほどJ2に戻れていない状況については、本当に申し訳なく思っています。これまでクラブを支えてこられた皆様は、それぞれ置かれた環境の中で最善を尽くしてこられたと思います。ただ、クラブとして競技面で積み上げてきたものが継承されているかという点については検証が必要だと感じています。当然、人は変わります。選手はもちろん、フロントも強化担当も変わっていきます。それでも、クラブの中にプレースタイルなどがしっかりと残り、それが積み上がっていく。そういうものが、まだ足りないのではないかと、私自身は感じています。言葉を変えますと、属人性を排するという事なのだと思います。それをどうクラブの中に残していくかについては、強化担当とも議論を始めています。その1つがギラヴァンツ北九州らしいプレースタイルの部分です。この2年間は、ハイインテンシティ、ハイポゼッションで取り組み、そのスタイルに見合った選手の特性や、追いかけていく指標を設定してきました。ただ、それがなかなか形になっていない中で、今回はハイポゼッションをいったん置いて、ハイインテンシティにより軸足を移す方向性でプレースタイルを作ろうとしています。そこを先ずしっかりと構築し、クラブの中に残して次の世代にバトンを渡していく。その先には、もともと掲げていたハイポゼッションもありますので、クラブの規模やかけられるチーム人件費と照らし合わせながら、その目標に向かって進んでいくことが必要だと思います。より中期的な観点で、競技面の強化を図っていく必要があると感じています。

【質問者 1 3】

社長に1つだけお願いします。先ほどからメンタルや食事の話が出ています。強化部長や監督を中心に現場は頑張っていますので、社長には後方支援、事務面での支援などできることを徹

底してやっていただきたいと思っています。ここからは先を見た話をしたいです。ギラヴァンツ北九州が生活の中心です。そうなったきっかけは、3年前のギラフェスです。3年前だったと思いますが、その前に、娘たちを初めて試合に連れていきました。その時、選手が勝った後に踊ってくれて、みんなで一体感を持てたことがよほど嬉しかったのだと思います。それで、もう1度ギラフェスにも一緒に来てくれました。その時も、当時の選手と一緒に歌ってくれました。勝った後に、サポーターと選手でチャントの掛け合いをしたと思います。あれが娘たちには本当に嬉しかったようで、それからギラヴァンツ北九州に来てくれるようになりました。今は勝利のジャンプをしていると思いますが、何となくゴール前で挨拶してそのまま帰るように感じます。他のチームでもよくやっていますが、サポーターと選手が一緒になって喜びたいんです。もちろん、選手は疲れていると思いますが。これは強化部長にお願いすることなのか、社長なのか、サポーター団体なのか分かりませんし、サポーター団体の考えもあるかもしれませんが、ただ、本当に一緒になって喜べるようなことをイベントというわけではありませんが、毎試合定例的にやっていただきたいです。1試合1試合、勝点3を積み上げていきたいと思うますので、よろしくお願いします。本当に期待しています。

#### 【池元友樹】

ありがとうございます。勝った後のあの雰囲気は実際に見て、とても良かったと今でも覚えています。選手が変わっても、そういったものがつなげていくことは、サポーターの皆さんの楽しみの1つになると思います。貴重なご意見だと思いますので、選手たちとも共有したいと思います。引き続きよろしくお願いします。

#### 【質問者14】

選手、監督、そしてクラブの皆様にどうしても伝えたい思いがあり、今回参加しました。世界でサッカーが一番人気のあるスポーツです。しかし、日本では、そして福岡県では野球、ホークスが大人気です。メディアもホークス、野球ばかりです。私はサッカーが大好きなので、本当に悔しい思いをしてきました。福岡県にはサッカーもあること、ギラヴァンツ北九州というクラブと、どんなことがあっても選手の後押しをやめない素晴らしいサポーターがいることを、みんなに知ってほしいんです。何より、こうしてクラブの社長や強化部長とサポーターが直接顔を合わせて話し合える距離の近さ。これこそが野球にはない、Jリーグの最高の魅力だと感じています。そんなギラヴァンツ北九州が好きだからこそ、石田社長がおっしゃっていたように福岡県を野球の街からサッカーの街に変えたいんですよね。じゃあ変えましょうよ。私は今

回2回目の参加です。1回目は、2023年の最下位の時でした。あの時もクラブとサポーターが1つになろうと言いましたが、このスポーツは1つになるだけでは絶対に勝てません。サッカーは点を取り合うスポーツです。1対0で勝つより、3点取られたら4点取り返すサッカーを見たいんです。そのためには、強烈なエゴイストを持ったストライカーが覚醒することが必要です。要するに個の能力です。ゴールの再現性が欲しいんです。ただ、2年前と今の状況の違いは公式戦の序盤だということです。今ならまだ間に合います。クラブは毎年「昇格」と言っていますが、本当に全員が心の底からそう思っていますか。言わされているものではありませんか。勝たなければと意識しすぎて、本来のプレーができなくなっていますか。サッカーを始めた頃の純粋に楽しかった気持ちを忘れていませんか。選手はもっと楽しめばすごいプレーができるはずです。選手が楽しくプレーしてくれなければ、サポーターの私たちは全然楽しくありません。最近のギラヴァンツ北九州のサッカーを見ても、楽しくないしワクワクしません。私たちサポーターは、走れない選手、戦えない選手、下を向いている選手は見たくありません。ゴールが見えたらまずシュートを打ちましょう。きれいに崩さなくてもいいんです。とにかく顔を上げて泥臭くギラギラした目でゴールに向かう選手を使ってください。私はただファンではなく、苦しい時も楽しい時もクラブや選手と一緒に戦う仲間です。そしてチームの闘志に火をつける着火剤だと思っています。クラブの躍進は、この街の全ての人の活力です。チーム一丸となってもう1度パッションを持って戦ってください。J1の満員のスタジアムを夢見る子どもたちにも、どうか次節から責任と覚悟を持ち誇りを胸に熱いサッカーを見せてください。ずっと応援していきます。ありがとうございました。

#### 【石田真一】

ありがとうございます。おっしゃるとおり選手一人ひとり、そしてクラブのスタッフ全員が心の底から思いを持ち、同じ方向、同じ目標に向かって取り組むことがまずはスタートだと思っています。この街におけるクラブの重要さは、皆様にご声援いただく中でいつも強く感じています。なかなか結果を出せず本当に心苦しいのですが、改めてクラブのメンバー全員で目標に向かって取り組んでまいりますので、引き続きご声援をよろしくお願いします。

#### 【池元友樹】

ありがとうございます。選手たちはプロですし、思いが伝わらなければ、そういうふうに見えなければまだ足りないということだと思います。僕が「彼らもしっかりとした思いを持ってプ

レーしています」と言っても、そのように見えていなければまだ足りないということです。そこはもっとみんなに危機感を持ってもらわなければいけませんし、そういう思いを持ってもらえるような部分を作っていかなければいけないと思います。

#### 【質問者 15】

皆さんこの数年間、本当にきつい時間を過ごしてこられたと思います。最後に3連勝したのが2年前で、その前の大型連勝は2020年の9連勝です。それ以来サポーターの皆さんは、大きな成功体験をしていません。その中でGMが不在となり、それでも歯を食いしばり1つでも順位を上げたいと思いながら百年構想リーグも戦い抜いてきました。そしてこの6試合を通して、勝点が3という状態が続いています。この早い時期にサポーターカンファレンスを開けたことは、私にとってとても幸運だったと思います。残り32節ですが、その中でJ2を目指す方針は変わらないということで、私たちもそれに向かって取り組まなければいけないと思います。私はサポーター団体で活動していますが、その目標を達成できる可能性を1%でも高められる応援をしなければいけないという、1つの指針を今日いただけたと思います。次は相模原戦があり、その後は鹿児島戦、ルヴァンの2回戦でJ1と対戦し、その後にギラフェスがあります。集客も含めて、非常に重要な試合になると思います。ここで自信を持てれば当然リーグ戦にもつながりますし、サポーターの皆さんももう1度気持ちを上げて残りの試合に臨めると思います。質問ではなく、最後は自分の話になってしまいましたが、全力を出します。J2にいきましょう。

---

閉会挨拶

---

#### 【石田社長】

皆様、本日は長時間にわたり率直なご意見、ご質問をいただき本当にありがとうございます。今日の私どもからの説明で、皆様の疑問や不安が解消されたとは考えていません。これからのチームの戦い、そしてクラブの判断や対応を通じて、皆様のお気持ちに伝えていかなければい

けないと重く受け止めています。最後におっしゃっていただいたとおり、J2 昇格という目標に向けて、目の前の試合で1つひとつ勝点を積み上げられるよう、まずはチームの改善とそれを支えるクラブとしての体制の拡充を進めてまいりたいと思います。改めて、日頃からクラブを支えてくださっている本日お越しの皆様、本当にありがとうございます。そして、直接お話しする機会をいただきましたことに、改めて御礼申し上げます。

本日は長時間、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。